

【令和6年度第1回足立区区民評価委員会】会議概要

会 議 名	令和6年度第1回足立区区民評価委員会		
事 務 局	政策経営部政策経営課		
開 催 年 月 日	令和6年4月25日（木）		
開 催 時 間	午後1時29分 ～ 午後2時54分		
開 催 場 所	足立区役所中央館8階 特別会議室		
出 席 者	藤後 悦子 会長	大口 達也 副会長	桑原 千明 委員
	宮里 尚三 委員	石井 綾子 委員	大手 智彦 委員
	小川 大樹 委員	川口 育子 委員	田代 貴巳 委員
	中村 重男 委員	信田 麻衣 委員	樋口 航生 委員
	保坂 祥子 委員	眞野 玲子 委員	山口 暁子 委員
欠 席 者	荻原 雅史 委員	福井 知史 委員	
会 議 次 第	別紙のとおり		
資 料	資料1	令和6年度足立区区民評価委員会委員名簿	
	資料2	今年度の区民評価活動	
	資料3	分科会の体制と各分科会評価事業について	
	資料4	年間の評価活動の流れ	
	資料5	足立区区民評価委員会条例施行規則	
	資料6	区民評価委員会の表彰制度について	
そ の 他			

(審議経過)

○事務局(政策経営課長) 定刻前ではございますが、皆さんおそろいとなりましたので、ただいまより令和6年度第1回足立区区民評価委員会を開催いたします。

私は、本日の司会進行を務めます、政策経営部政策経営課長の鈴木でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

まず、議事に入ります前に、本日配付させていただきました資料の確認をさせていただきます。表紙が次第になっていまして、その下に資料1から資料6までございます。また、カラー刷りのチラシを3枚お配りさせていただいております。不足がないかご確認いただければと思います。

本日は、14名の委員の方が区役所から本委員会にご参加していただき、1名の委員の方がオンラインでご参加いただいております。

なお、2名の方が本日はご都合により欠席となりました。

ウェブでご参加いただいている委員の方にお願いがございます。ご自身が発言を行うとき以外はミュートの設定をしていただきますよう、ご協力をお願いいたします。

本委員会並びにこれから行われます分科会につきましても、足立区区民評価委員会条例施行規則第4条の規定に基づきまして、公開を原則とさせていただきます。会議記録、委員名簿も含めて公開となりますので、その点ご了承いただければと思います。

また、会議録作成のため、委員の皆様のご発言を録音させていただきますことも併せてご了承いただければと思います。よろしくお願いいたします。

それでは、早速、次第に沿って本日の議事を進めさせていただきます。

まず、次第の1番、委嘱状の交付でございます。本日は、今年度から新たに委員としてご就任いただきます学識委員1名の方、そして新任と再任の

公募委員7名の方々、それぞれの皆様に委嘱状を交付させていただきます。

なお、本来ならば近藤区長より交付させていただくところですが、あいにく緊急の公務がございまして、工藤副区長から交付させていただきます。

工藤副区長、お願いいたします。

(副区長から委嘱状を交付)

○事務局(政策経営課長) 続きまして、次第の2番に移りたいと思います。

区民評価委員会条例第5条の規定に基づき、会長と副会長の選出を行います。会長・副会長の選出について、いかがでしょうか。皆様、ご意見ございますでしょうか。

○眞野委員 これまでの区民評価委員会の会長・副会長としてのご経歴とご実績のあらわれる、引き続き藤後委員を会長に、また大口委員を副会長に推挙させていただきたいと思います。

○事務局(政策経営課長) 今、眞野委員様から、会長に藤後委員、副会長に大口委員ということでご意見を頂いたのですが、こちらについて何かご意見ございますでしょうか。

もしご異存ないようでしたら、拍手でご承認いただきたいと思います。よろしいでしょうか。

(拍手)

○事務局(政策経営課長) ありがとうございます。

それでは、藤後委員に会長を、大口委員に副会長をお願いしたいと思います。

藤後会長、会長席にご移動をお願いいたします。

続きまして、次第の3番、諮問書の交付でございます。工藤副区長より藤後会長に区からの諮問書を手交いたします。

(諮問書交付)

○事務局(政策経営課長) それでは、ここで、第1回区民評価委員会の開催に当たりまして、工藤副区長よりご挨拶申し上げます。

○工藤副区長 改めましてこんにちは。近藤区長に代わって一言、私、副区長の工藤からご挨拶を

させていただきます。

今年度の評価委員の皆さんは、学識の先生が1名、そして区民公募の皆さんが新しく7名の方が委員さんになっていただきました。一般公募の方は全部で37人の応募がありまして、その中から7人を選ばせていただきましたけれども、非常に熱心な議論をしていただける、評価していただけるということを本当に期待しております。

私ども、今年度の予算のテーマが「命と暮らしを守りぬく。安心と活力のあだち」というテーマでございました。その中の「安心と活力」というのは、実は昨年度からつけているテーマで、コロナがございましたし、物価高騰もございました。また、災害も多いということで去年からつけていたのですが、その「安心と活力」は今年も引き続き今年度の予算のテーマとさせていただきます。そういった意味で、今年評価していただく昨年度の内容は、「安心と活力」というのを重点プロジェクトの中から選ばせていただいておりますので、特にその辺を熱心にご議論いただければと思います。

昨年の評価委員の方から頂いた意見で、今年度2つ、皆様方に評価の中でお願いしたいことがあります。

1つは、現場を実際見ていただいて評価をしていただくということです。ただ単にヒアリングだけだと、なかなか現場が分からないところがございまして、ぜひ現場というようなご意見がございましたので、お願いしたいのが1点です。

もう1点は、担当の課長ですとかの意見だけを聞いていると、本当にチームで行っているかどうか見えないところがあるという意見がございましたので、なるべく担当の職員ですとか現場の職員ですとかといった職員の意見もお聞きいただいて評価いただければと考えております。

今年度、1月1日から大地震がありまして、どうなるかというような状況でした。実は私、能登半島に支援物資を持って行ってまいりましたけ

れども、避難所も見させていただきました。実は2か所避難所に行ったのですが、市の職員がいたのは1人だけだったのです。それ以外全部ボランティアか地元の方あるいは国の支援とかということで、いかに地元自治体の力がないことを改めて実感いたしました。実際足立区にしても、やはり地域の皆様ですとか、ほかの方の支援がないとなかなかうまく回らないと考えておりますので、これからは、行政のやることも当然ですけれども、自助・共助のことを地域の皆さんによくご理解いただいてやっていかなければいけないなということを改めて感じたところでございます。

この評価は5か月ぐらいしかなくて大変だと思えますけれども、足立区としては、この評価委員会、19回目になりますけれども、大切にしておりますので、ぜひよろしく願いいたします。

以上でございます。

○事務局（政策経営課長） 申し訳ございませんが、副区長はこの後、他の公務がございまして、ここで退席させていただきます。

（副区長退席）

○事務局（政策経営課長） 続きまして、次第の5番でございます。会議に先立ちまして、委員の皆様方に自己紹介をしていただきたく思います。

本日お配りした資料1の名簿をご確認ください。まず、藤後会長、大口副会長からご挨拶いただき、その後は名簿の順番に自己紹介をお願いいたします。なお、時間に限りがありますので、1人2分程度でお願いできればと思います。

それでは、藤後会長、ご挨拶をお願いいたします。

○藤後会長 会長を拝命いたしました東京未来大学の藤後と申します。よろしくお願いいたします。

簡単に私の自己紹介をさせていただきますながらご挨拶に代えさせていただきます。東京未来大学は2007年に足立区にできております。私は開学のときから、こちらに勤めています。実は私、多

摩のほうに住んでいまして、片道2時間半かけて通っているのです。それほど足立区の魅力に引かれているというような状況でございます。

私の専門は、臨床心理学やコミュニティ心理学です。学部の学生の頃から、人の成長、人のウェルビーイングと地域のウェルビーイングがどのように両立できるかということを考えてきました。その中で、私自身の3人の子育てを通して生活者として感じる疑問であったり子育てで直面した問題をどう解決していくことができるのか、そこに学問として何が寄与できるのかということを考えてきました。

そうするとどんどん研究の場所が広がっていききました。私の主な分野としては、保育や子育て支援が1つ目。2つ目が学校臨床。3つ目がスポーツ分野です。スポーツを通して、我が子が多汗症ということに気づいて、汗に関する研究もしております。

以上よりこの区民評価というのは本当に私自身も思い入れがありますし、区民が力を持って変わっていく、まさに区民が成長する、そして地域も成長していくというものの具現化を見ているような感じがするのです。ですからこそ、皆さん方と一緒にこの半年間、学びながら評価をしたいと思っております。

足立区のこの区民評価、先ほど副区長が「5か月しかないから」とおっしゃっていましたがけれども、5か月も確保している自治体って本当に少ないのです。外部を入れての行政評価は、場合によっては1日、2日で終わらせてしまうことも多い中で、5か月かけてしっかりと議論しながら私たちの声を反映させていくということは本当に素晴らしいことだと思っております。

ただ一方で、民間のスピード感にはまだまだ負けてしまうのですが、少なくとも、私は8年関わっていますけれども、確実に皆さん方の意見を反映させていこうとしておりますし、確実に変化させていっております。今年度も忌憚のないご意見を

を頂戴できればと思っております。

最後になりますけれども、私の専門とするコミュニティ心理学では多様性というものを重視しております。特に意思決定であったり政策に反映できるような場所にいろいろな方々がいらっしゃるといことをとても大切にしていきます。今年度も新しいメンバーの方が多く加わっていただきました。ぜひ皆様方と一緒に活発な議論を行っていきたく思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

以上でございます。

○事務局（政策経営課長） 藤後先生、ありがとうございました。

続きまして、大口副会長、よろしくお願いたします。

○大口副会長 皆様、聞こえておりますでしょうか。ウェブから失礼いたします。副会長を仰せつかりました大口達也と申します。勤務校が大学から専門学校に替わりまして、埼玉の大宮にある、すごく長い名前の専門学校に今勤務しております。

足立区の福祉については、特に高齢者福祉に関わって10年ぐらいが経過して、地域福祉とかまちづくりといったことも専門としていますので、この地域の中での区民の皆さんの支え合いだとか、行政や専門職の動きなども関心を持って今の区民評価にも携わらせていただいております。

今、藤後会長よりお話がありましたが、この区民評価は、コロナ禍を乗り越えて進化してきた仕組みでもあります。なので、今回、ウェブで私は参加していますが、こういったことも標準的に行われるようになってきたということも一つ大きな部分で、PDCAをしっかり回しているの、毎年改善を取組として挑戦されているということがあります。恐らくこの後も、今年はどういうふうなことをしてみます、こういうふうに変更していきますみたいな評価の仕組み自体のお話が事務局からあると思います。なので、私自身、

これは全国的にもとても素晴らしい評価の仕組みで、足立区の区民の皆様のために、皆様と一緒に区民評価をよりよいものにしていきたいというふうに思っています。

なので、評価活動ということが、この半年間結構いっぱいあって大変な部分はあるのですが、ぜひ、この区民評価の在り方自体も皆さんの視点からいろいろとご意見やご議論、また検討をしていきたいと思っています。藤後会長と皆様をサポートする立場が副会長の役割だと思っていますので、頑張りますので、よろしくお願いいたします。

○事務局（政策経営課長） 大口副会長、ありがとうございました。

続きまして、委員名簿に従いまして、桑原委員、よろしくお願いいたします。

皆様の前にマイクが置いてありますので、マイクのスイッチを押していただくと緑色のランプが光りますので、その後お話しいただければと思います。

桑原委員、よろしくお願いいたします。

○桑原委員 皆さん、こんにちは。文教大学の桑原千明と申します。今年度から委員を拝命いたしました。

私の専門は、臨床心理学、発達心理学となっております。事前の説明会や、今回この役割を拝命するに当たりまして少し調べさせていただきましたので、こういった評価の仕組みを持っている自治体というのは非常に少ないということを知りましたので、私自身もこのメンバーの一人に加われることを大変うれしく思っていますし、非常に「勉強」という言葉が事前の説明会でも多く出されておりましたので、私自身も勉強しながら、本学がキャンパスを置かせていただいている足立区のお役に立てるよう努力してまいりたいと思います。皆様にもお力を貸していただきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

○事務局（政策経営課長） 続きまして、宮里委

員、よろしくお願いいたします。

○宮里委員 日本大学の宮里と申します。よろしく申し上げます。

私は3年前に委員に任命していただきましたが、3年前は実はコロナであまりできなかった時期がありました。先ほど大口副会長からありましたように、皆さん乗り越えてやってきたのですけれども、実際のところ、去年が初めてでしたがすごく活発に行い非常に多くのことを学ばせていただきました。私の専門は経済学で、社会保障や医療、財政とか公共経済なのですが、経済学の分析は、どちらかというと引いた分析というのが割と多いのですが、非常に皆さんが活発に議論や勉強されているのも非常に感銘を受けて、現場のことをもっと知らない、いい研究もできない、いい授業もできないと痛感いたしました。皆さんの委員の活動に微力ですが、貢献できればと思っておりますので、今後ともよろしくお願いいたします。

○事務局（政策経営課長） 続きまして、石井委員、よろしくお願いいたします。

○石井委員 皆さん、こんにちは。石井綾子と申します。私は公募委員2年目になりまして、昨年1回だけ経験したというところですが、「まちと行財政」というのを担当させていただきました。

私自身のバックグラウンドとしては、今はNPO法人で勤務しておりまして、その前は企業勤めをしておりました。企業勤めの頃はあまり時間が取れなくて、足立区のことをよく知らないまま、ただ住んでいるだけというところだったので、今は少し、NPOという仕事もそんなのですが、地域に目を向ける時間ができてきたというところで、去年1年間の活動は非常に私にとっては有意義なものだったなと思っております。

特に御礼申し上げたいのが、「まちと行財政」をやらせていただいて、私だけではなくて何人か委員の方がいらして、意見をさせていただいたの

ですけれども、例えば水害時の避難所が足りないんじゃないかというところで、今年、受入れの調査、何人受け入れられるかの調査をしてくださるですとか、町会・自治会の活動をもうちょっとやったらというところで、子ども向けのイベントとかを増やしていこうといった取組をご検討いただいているというところで、非常にありがたいなと。言ったことが入っているからうれしいということではなくて、まず、「じゃあ、そういう意見もあるのならやってみよう」というふうに一歩進めてくださる足立区の職員の皆様に非常に感謝したいなと思っていますし、ただ、それがうまくいくかは分からないので、こういった活動の中で一緒に考えていける機会が得られたというのは大変うれしく思っております。

今年も1つでも2つでもそういった事案が出てくれば非常にうれしいなと思いますので、どうぞ指導のほどよろしくお願いいたします。

○事務局（政策経営課長） 大手委員、お願いいたします。

○大手委員 こんにちは。大手智彦と申します。今年2年目になります。昨年は一般事務事業見直し分科会を担当させていただきました。

私自身は2005年に足立区に転入してまいりまして、今年で19年目になります。家族は妻と高校生の娘の3人で、子育てはゼロから全て足立区でお世話になりました。

現在、私はIT系の企業に勤務しております。振り返るともう25年目になりますが、その間、インターネットの黎明期から現在に至るまでの間、様々なサービスの事業計画策定、立ち上げ、運営、顧客対応、プロモーションなどに携わってまいりました。現在は、生成AIを業務現場でどのように活用するか、また、会社が保持している営業情報、サービスを利用いただいている顧客の個人情報をどのように管理するかなど、セキュリティ関連の業務も兼務しております。

昨年の1年目は、こういった知見を少しでも足

立区の事業に活かすことができればと思います委員を務めました、実際は区役所の現場担当者の方々からいろいろなお話を聞かせていただき、逆に本当に良い勉強をさせていただきました。また今年も1年、今年で最後になりますけれども、どうぞよろしくお願いいたします。

○事務局（政策経営課長） 小川委員、お願いいたします。

○小川委員 皆様、初めまして。小川と申します。よろしくお願いいたします。今回は初めての参加となります。

私は生まれも育ちも足立区でして、現在も妻と子ども1人と足立区に住んでおります。私が子どもの頃から比較すると、足立区、とりわけ北千住近辺というのは、すごく治安もよくなったりとか、若者が街にあふれるような感じに変化してきて、私自身、何で子どもの頃から比べると、この数十年とかでこんなにも変化があるのかなといったところでとても関心があり、区政にも興味が湧いているというのがずっとありました。

関心はずっとあったのですが、私はここ十数年ぐらいIT関連のデザイナーを務めておりまして、こういった区政とは遠いところで仕事をしているので、かなり分からないことが多いのですが、ぜひこの区民評価委員会を通じて足立区に貢献できるようなことができればよいなと思っております。皆様、どうぞよろしくお願いいたします。

○事務局（政策経営課長） 川口委員、お願いいたします。

○川口委員 皆様、こんにちは。川口と申します。

私は30年間足立区に住んでおります。最初の21年は北千住におりまして、残りの、現在もですが、小台に住んでおります。子育ても足立区でいたしました。

今、小川委員からあったように、大分変わったなという印象があります。北千住の東口と西口をつなぐ地下道を自転車がとても、当時は全部一緒

で危なかったのも、それを私、「区長への手紙」というのが当時、今もあるのかもしれないですけども、ファクスで送って、それで土木課の方の会議に入れていただいて、一緒にあそこを変えたという経緯がありまして、ちょっと区政には興味がございました。

30年前に足立区に来たときにはまだ大分見えていたのですが、ちょっと視覚に障がいがありまして、今どんどん悪くなっている状況の中で足立区に住んでおります。これは足立区だけではないのですけれども、本当に社会には、多分見えている方は、どんどん便利になっているというふうに感じる方もいらっしゃるかもしれませんが、どこか不自由がありますと、逆にどんどん不便になっているなというふうに感じております。そういった視点で、私としてはまず、自分の住んでいる区、足立区が、何か私が提言することで、先進的なことをぜひ一緒に取り組みたいなというふうに思っております。

先ほど副区長から「現場主義」というようなことがありまして、やはりこうやってただ座って議論をするということだけではなく、できれば皆さんと現場に出かけて、お互いに気づき合えたらとても楽しいだろうなと思って期待をしております。よろしく願いいたします。

○事務局（政策経営課長） 田代委員、お願いいたします。

○田代委員 初めまして。田代貴巳といいます。

僕も足立区で生まれて、ずっと足立区で育って、結果的に、今47なのですけれども、47年間足立区からは結局出ることなく、結婚した際が13年前なのですけれども、そのときに一瞬西側のほうにいろいろ物件を見て見つけたのですけれども、結果的に足立区になってしまったというか、足立区でよかったなとは思っているのですけれども、そういった人生を送っております。

プライベートとしては、子どもが生まれて、今年で小学1年生に入りまして、もちろん足立区で

ずっと育てて、足立区の区政をすごく実感したのは子どもが生まれてからなのですね。一番公園の占有面積が多いとか、そういうことも全く肌感でも感じなかったですし、そもそも公園自体に行かなかったというか、利用するというのも全然意識がなかったのですけれども、やはり子どもができるとか、あるいは妻、連れができるかという、生活が変わっていく中で、実はいろいろと区政がやっていただいていることに非常に享受を受けているんだなというのは非常に実感していて、6年間子どもを育てたという経緯があります。

今、仕事自体は、7年ぐらい前に独立しまして、レストランコンサルティングという形で、レストランを中心としたコンサルティングをやっているのです。具体的に言うと、立ち上げだとか、あるいはコロナ前ですと人の悩みとか、あとはうまくお店が回っていないとか、利益が出ていないとか、そういったところがすごく多くて、ご相談を受けたりとか、改善したりとかという形でずっとやらせていただいています。

今はどちらかというところ、比較的企業様を年間を通して運営を、委託を受けて幾つかやっていたりだとか、あるいは立ち上げのプロジェクトがあったら立ち上げをやったりとかというのをやっているのですけれども、そんな中で、個人的な悩みとしては、自分が何をやりたいのかというのをここ数年ずっと考えていて、それを言葉にしたときに、いろいろな方を受け入れるのですね。自分が面接をしたりだとか、あるいは今いる方たちの環境を変えて、再度もう一度やり直すというところ

で。サラリーマン時代というのは転職も何回かしたのですけれども、自分自身がいい環境を求めているいろいろな行動したりとか、よりいい環境に行きたいなという夢というか欲望が強かったのですけれども、今はどちらかというところ、いい環境を見つけてというより、いい環境をつくりたいなというところが自分のやりたいところというか、やるべ

きことなのかなというのが、言葉にするとそういう感じに自分自身のことは解釈しているのです。

数年前にそういう感じで自分のことを解釈したのですけれども、いい環境って、そもそも、じゃあどうやってつくっていくんだろうというのは非常に個人的に悩んでいまして、そんな中で、妻が実際この評価委員の募集というのを見つけてきてくれて、あっ、こういうことをやっているんだというのをそのときに初めて知りまして、ぜひ自分自身の原体験というかベースとなっていてるところというのは、そもそも足立区であり、自分が住んでいたところであるので、どういったことをやっているのかというのを勉強させていただいて、それを僕なりにいろいろなところにフィードバックしたいなという思いがありまして、今回こういった形でご参画させていただきたいなと思い、応募させていただきました。

全然本当に分からないのですけれども、僕なりにいろいろ外で見してきたこと、やってきたこととかもフィードバックして、皆さんと一緒に作り上げていければいいと思いますので、ぜひよろしくお願いいたします。

○事務局（政策経営課長） 中村委員、お願いいたします。

○中村委員 中村と申します。よろしく申し上げます。

私は2年目なのですが、くらしと行財政分科会のほうに所属しております。

2007年に千葉の佐倉というところから西新井に移りまして、その前まではずっと転勤族で社宅住まいでしたので、2007年から初めてマンション住まいになったということです。たまたま実家が伊勢崎にありますので、実家の親の面倒を見るために都合のいいところはどこかなというところを探して、うまく西新井がヒットしたという状況で、2007年から住んでおります。

私、この区民評価委員会に入る前に、足立区の環境審議会ですとか個人情報保護審議会ですと

か、幾つかの委員会みたいなものを経験させていただいているのですけれども、その中で、環境部なら環境部でいろいろな事業をやっているのですが、この事業はどういうふうに展開されているのかなというのがありまして、たまたま去年、広報を見て、区民評価委員会というのがあるということで、手を挙げて、採用していただいたというのが発端になっております。

私は既に退職しておりまして、娘家族が2人いるのですけれども、長女が中野区で、次女が目黒区にいたのですが、出産を機に足立区に引っ張り込みまして、長女が今家のすぐ近くにおりまして、次女が北千住にいます。そんな形で、家族が全員足立区にお世話になっているということです。

今回2年目に当たりまして、昨年度初めて経験させていただいたのですけれども、事業の中身を確認する事前の準備というのが十分取れていなかったのかなというのが反省点でありまして、できればきちっと事前準備をしてヒアリングに臨むということを今年はやっていきたいなというふうに思っております。

私自身、前職が金融機関でコンプライアンスの関係をやっておりましたので、そういう観点からも見ていきたいですし、あとは、もう定年退職していますので、区民目線というか、フラットな形でいろいろな事業を見ていきたいなというふうに思っております。よろしくお願いいたします。

○事務局（政策経営課長） 信田委員、お願いいたします。

○信田委員 こんにちは。信田と申します。よろしく申し上げます。

私は本年度から本委員会に参画させていただきました。本業としては、ふだんは民間の企業に勤めておりまして、コンサルティング業務といたしますか、お客様の課題を解決するという業務を主にしております。

皆様何人かいらっしやったのですけれども、私も生まれも育ちも足立区でして、二十数年以上も



足立区に住まわせていただいているという状況でございます。過去、二十歳のときに成人式の実行委員長をやらせていただきまして、そこで「区政を語り合う会」等に参加したことで区役所の皆さんにすごくよくしていただいたりですとか、区政に関心を持ったというところがございます。そこから大学であったり民間の企業に勤める傍らではありますが、地域活動等に参加してきたという経緯がございます。

地域活動をしている中で感じているのが、本当に私、住みやすい街だなと足立区のことを感じておりますし、いい街だなというふうに思っているのですけれども、なかなか魅力が伝わり切っていないところがあるのかなというところを感じたりすることもありまして、私自身がそういった魅力というところをもっと伝えることをしていきたいという考えが芽生えまして、今回のような活動にも参加しているという経緯がございます。

いろいろと至らないところもあるかと思えますし、微力ながらというところになるのですけれども、足立区のよりよい街にするという活動にお力添えできればと思っております。皆様、ご指導のほどよろしくお願いいたします。

○事務局（政策経営課長） 樋口委員、お願いいたします。

○樋口委員 昨年度から参加させていただいている樋口航生と申します。よろしくお願いいたします。

私の自己紹介とさせていただくと、まず現在、大学院生の修士2年になります。なので、来年から就職予定なのですが、昨年度、大学院生時代から参加させていただいているというような経緯になっております。

やっているところとしては、振動のセンサーで解析だったり、あとは、よくAIと言われていると思うのですが、そういう類いを使っているいろいろなことを解析だったりしているのですけれども、なぜ私が参加させていただいたかという

経緯をまず最初に述べさせていただくと、私も2011年から足立区に住まわせていただいて、その前は大阪に住んでいたのですが、足立区に住んでいて、すごく住みやすいと思っていますし、いい面もたくさんあるなと思っています。けれども、逆に言えば、ほかの自治体と比較して改善すべき点も実際あると思いますし、ほかの自治体から見て足立区に対する印象というのはやはり住んでいる方と少し相違があるのかなというのは、住んでいて考えておりました。そのようなことから、昨年度、3月だったり、そのあたりでこの委員会についてホームページの応募フォームがあったので、応募させていただいて、昨年度から参加させていただいているというような形になっております。

です。現在私も妹と両親と4人家族で足立区に住んでいるのですが、やはりこれからも足立区に住んでいくと思いますので、そういう意味では、よりよい足立区になっていただきたいというのと、その魅力をいろいろな方に知っていただきたいという意味でも、まずはいろいろなことを自分が勉強させていただいて、こういところで何かしらのフィードバックを出すことができればかなと考えております。至らない点などあるかと思いますが、本年度もよろしくお願いいたします。

以上となります。

○事務局（政策経営課長） 保坂委員、お願いいたします。

○保坂委員 昨年より評価委員を務めさせていただいております保坂祥子と申します。よろしく申し上げます。

私は3歳の娘がおりまして、娘の出産と子育てをきっかけに区政に興味を持ち、応募させていただきました。娘に指定難病があることから区役所に来る機会も多く、いろいろな福祉制度を利用する中で、自分の経験や知見を貢献したいと思っております。

昨年、評価委員を務めてみて思ったこととしては、正直なところ難しかったです。それだけ本気で私たちも評価活動に取り組んでいるし、職員の方も取り組んでいるので、真剣に議論したなどと思います。かなり考えることが多かったり、どうすればよくなるんだろうというのを本気で考えた5か月間だったかなと思います。

なので、今年もきっと職員の方と実際にお話ししたり自分がこれまでしてきた子育ての経験と、これからさらに娘を育てていくという視点で、「ひとと行財政」のところで自分の意見が何かしらの役に立つのではないかと思いますので、今年も頑張りたいと思います。よろしくお願ひします。○事務局（政策経営課長） 眞野委員、お願ひいたします。

○眞野委員 よろしくお願ひいたします。眞野玲子と申します。

足立に暮らしてから数えたら26年目でした。結婚とともに足立区に来まして、生まれは静岡で、その後は、大学で東京に進学してきたのですけれども、いわゆる西側に住んでいました。結婚して、キャベツの値段が本当に足立区が安くて、引っ越してきてめちゃくちゃ驚いたのを覚えています。

足立区大好きで、多分ですけれども、前回の自己紹介でも言ったのですけれども、ここにいらっしゃる皆さんの中で一番足立の広報だったりチラシを、目を皿のようにしてこの25年間見てきたと思っています。いろいろな保育付きの講座だったり、今9年目を迎えた、起業している「あおぞら作文教室」という作文塾が本業なのですけれども、その起業の際にも本当にあらゆる足立区の無料のセミナーだったり、いろいろな作ってくださっているコンテンツを使い倒して生きてまいりました。

今、教育がすごくICT化で変わっていつているのですね。実際に小学生、中学生を指導して、見ている立場でもありまして、やっと思返しができるといふか、今その現場をよく見ている私で何

か、どういうふうに関際ICTが進んでいくのかとか、それだけではないのですけれども、教育の現場の生の声をお伝えできたらいいなというのととも、去年1年やらせていただいて、2年で再任となっているのですけれども、コロナでほとんど1年目がなかったので、去年初めて去年入った方たちと一緒にきちんとした評価に携わらせていただきました。本当に勉強になりました、まだまだ区政がどうなっていくのかが気になり過ぎて、再度応募させていただいて、入れていただくことができました。

小学校の介助員を9年、あと、今も学校の図書ボランティアをやっています。今日は学習支援ボランティアで西新井小学校で午前中ボランティアをして、今ここにおります。なので、いろいろな現場を知っているとは思っているので、何か皆さんのほうで私にご意見といふか、何かあれば、同じ公募委員の皆様からも何かご質問いただければ一緒に考えていきたいと思っています。

今後ともよろしくお願ひいたします。

○事務局（政策経営課長） 山口委員、お願ひいたします。

○山口委員 こんにちは。今年から評価委員になりました山口です。よろしくお願ひします。

私は今年で住んで10年ぐらいになるのですけれども、千葉出身で、その後は江戸川区、草加市、練馬区、清瀬市、多分8回ぐらい引っ越しをして、割と転々として。すぐ飽きちゃうので。その区にそんなに愛着がないといふか、学生時代はそんなに気にすることもなく転々と暮らしていました。足立区が一番長いのですけれども、子育て環境もよくて、今回評価委員に応募するのもその辺がきっかけです。

私は、本業は出版社で書籍の編集をしています。教育書ですが、自分で企画を立てて、大学の先生だったり、お医者さんだったり、教員の方だったり、いろいろな方に、マイノリティーの分野とかメンタルヘルスとか教育、多様性、国際理解だっ

たりというのをテーマに編集をしています。

そういうテーマを扱っていると、全国または世界の問題というのに関心があってその会社に入ったのですけれども、もっと足元を見なきゃいけないなということもあって、今回評価委員で現場の裏側をちゃんと見てみたいなと思って、学ぶことができるかなと思っています。

私自身は小学生の子どもが2人、息子がいるのですけれども、その子はほとんど足立区で育っているのです。子どもたちにも、区でこんなことをやっているんだよというのをきちんと話せるような親になりたいなと思っています。

1年間、皆さん、よろしくお願いいたします。  
○事務局（政策経営課長） 委員の皆様、ありがとうございました。

次に、事務局職員の紹介をさせていただきます。

政策経営部長、勝田でございます。

○事務局（政策経営部長） 政策経営部長の勝田と申します。今年度もよろしくお願いいたします。

○事務局（政策経営課長） 政策経営課長の鈴木です。よろしくお願いいたします。

○事務局（財政課長） 財政課長の菊地と申します。2年目となります。今年度もよろしくお願いいたします。

○事務局（政策経営担当係長） 政策経営課政策経営担当係長の芳賀と申します。今年度3年目となりました。どうぞよろしくお願いいたします。

○事務局（政策経営担当係長） 今年度、政策経営課に異動してまいりました菅原と申します。1年間、どうぞよろしくお願いいたします。

○事務局（政策経営担当係長） 同じく政策経営課の乾と申します。くらしと行財政分科会を担当させていただきます。よろしくお願いいたします。

○事務局（政策経営担当係長） 政策経営課の古田と申します。よろしくお願いいたします。私はまちと行財政分科会を担当いたしますので、よろしくお願いいたします。

○事務局（財政担当係長） 変わりました、財政

課の直江と申します。昨年度に引き続き、一般事務事業見直し分科会を担当させていただきます。よろしくお願いいたします。

○事務局（財政担当係長） 財政課の渡辺と申します。1年間、よろしくお願いいたします。

○事務局（政策経営課長） 以上のメンバーで皆様の審議が円滑に進むよう全力でサポートさせていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、ここからの議事進行は藤後会長にお願いいたします。藤後会長、よろしくお願いいたします。

○藤後会長 承知いたしました。

それでは、会議次第に沿って会議を進めてまいります。ご意見、ご質問がある場合は、説明後に承りますので、どうぞよろしくお願いいたします。

まず、次第の6の（1）の今年度の区民評価活動についてです。事務局より説明をお願いいたします。

○事務局（政策経営担当係長） 事務局より説明させていただきます。

それでは、画面をまず共有させていただきますので、少々お待ちください。

資料2をご覧ください。オンラインの大口委員も画面を見ていただければと思います。

表紙を1枚おめくりいただきまして、1ページ目から説明してまいります。

こちらでは、まずは「足立区の行政評価のねらい」についてご説明させていただきます。折に触れて繰り返しご説明している内容となりますが、足立区の行政評価のねらいは、これらの4点ということになります。

まず1点目、「区民に対する説明責任を果たし、協働・協創の基礎をつくる」という点です。

区として、自分たちがどのような活動をしているのか、その結果がどのようなになったか、どれほどのコストがかかったかなどが見える化しまして、区民の方への説明責任を果たすことで、区民

の方々との信頼関係を築き、新たな協働・協創関係を創る基礎とするということになります。

区民評価委員会の評価活動では、事業の所管課が委員の皆様をしっかり説明してまいります。このコミュニケーションを通して区民の皆様と信頼関係を築いて、説明責任を果たしていくということをねらいの一つとしています。

次に2点目、「より一層、成果重視の区政をめざし、重点プロジェクトを中心とした基本計画の進行管理を行う」という点です。

区では、「どれだけ活動したか」だけではなく、「その活動をしたことで、どれだけ成果が上がったか」という視点で区政を運営しています。また、重点プロジェクト事業と位置づけている事業を中心に評価を実施しておりますが、これを実施することで基本計画の進行管理を行っております。

その過程の中で区民評価委員の方から頂いたご意見を、区政を推進するエンジンとして位置づけて、区民評価委員会を運営しております。

3点目、「PDCAのマネジメントサイクルを確立し、戦略的な区政経営を行う」という点です。

行政評価は、評価すること自体が目的ではありませんので、評価した結果をその後の予算編成に反映するなどを通して戦略的な区政運営を行っていくこととしています。

4点目、「職員の意識改革を進め、政策形成能力を高めることにつながる」という点です。

区民評価委員会の評価活動の一環として、委員の皆様と職員との間でヒアリングを行っております。例えば、ヒアリングの資料作成の段階では、どのようにご説明をすれば委員の皆様にご伝わるかなどを意識しながら取り組んでいますし、一連の行政評価に関する活動を通して、職員一人一人が、区民の皆様が何を求めているのか、現状のままではよいのかといったことを自らに問いかけながら業務に向き合う機会となっています。その積み重ねが政策の形成能力を高めていくという

ころにつながっております。

続きまして、2ページ目をご覧ください。

先ほどもご説明しましたとおり、区の事業はPDCAサイクルを意識しながらブラッシュアップしていくこととしています。計画を立てて事業を実施するだけではなく、その後にCheck、評価を行っています。そして、評価することによって、課題や改善点が見えてくる。その課題や改善点に基づいて、Action、次の事業の改善というものにつなげていっております。これを、ただ単純に1周回するのではなくて、スパイラルアップさせていって、よりよい事業に高めていき、最終目標として基本計画・基本構想の実現につなげていくというのが足立区の行政評価制度の仕組みとなっております。

足立区では3段階の評価を実施しております。まず、内部評価として、事業の所管課が一次評価を行いまして、二次評価として庁内評価、担当課以外の職員による評価というものを行っております。

多くの自治体が内部評価で終わっている中で、足立区の特徴は、三次評価として外部評価を行っているという点です。

足立区は、学識委員だけではなくて、公募の一般の区民の方の視点も入っているという点が足立区の特徴となっております。その目的としましては、内部評価だけだと、どうしてもチェックが甘くなってしまうたり、行政職員には見えない、気づけない部分があるかと思います。評価の客観性を高めるといふところと、区民目線を取り入れた改善につなげていく、そして区民の方と対話をして説明責任を果たしていくというところを目的として区民評価委員会のお力添えを頂いております。

次のスライド、3ページ目をご覧ください。こちらのスライドは、区民評価委員会の1年間のおおよそのスケジュールをお示したものです。

ひと・くらし・まち分科会のスケジュールと一

般事務事業のスケジュールは多少時期が異なるのですが、それぞれ6月から7月にかけて対象事業の所管課のヒアリングを行いまして、分科会としての提言をまとめていきます。

これらを踏まえて会長が総括評価をまとめ、8月23日に予定しておりますが、こちらの全体会で報告書案について皆様に確認していただき、9月12日に会長から区長へ答申を行うという予定になっております。

評価結果につきましては、各部の事業改善にもつなげていっております。こちらの図でも、区長答申のところから矢印が下に延びて分岐しておりますが、予算のかからないような事業改善や見直しの検討には、年度内の下半期に早速取り組んでおります。取組結果を取りまとめまして、2月頃に反映結果報告書という冊子を作成し、委員の皆様にお渡しいたしております。また、区民評価の結果につきましては、次年度の予算編成にも生かされまして、評価結果を踏まえて各部が次年度の予算編成を行っております。

続きまして、4ページ目をご覧ください。こちらは「行政評価制度のさらなる推進」ということでまとめたものになります。

コロナ禍で区民評価委員会も令和4年度に1年間休止を余儀なくされまして、その間に、よりよい区民評価活動の在り方を検討しました。その結果、昨年度、試行的に取組の改革というものを行いました。

昨年度の夏の全体会では、委員の皆様から、評価活動を踏まえたご意見やご提言を多く頂きました。今年度の実施に当たり、そういったお声をどのように反映させて改善していくべきか、検討をしまりました。

その結果、今年度の取組の柱としてお示しているのが、こちらに記載している「区民評価ヒアリングの充実」、そして「新たな取組み」ということになります。こちらについて、一つずつ説明させていただきます。

5ページ目をご覧ください。こちらでは、ヒアリング時間の拡大の継続について記載しております。

令和3年度までは、1事業当たりのヒアリング時間はおおむね25分と設定しておりました。プレゼンテーション5分・質疑応答20分で行って行きました。しかし、所管課にとっては、5分間で事業の内容や成果を伝え切れないという声も実は上がっておりました。

そこで、5年度は、試行的にヒアリング時間を拡大しまして、1事業を深掘りしていくというような取組を行いました。所管課のプレゼンテーションは10分間とし、質疑応答の時間も十分に確保しました。このことで、所管課としては事業の説明を十分に行うことができたというような感想が聞かれております。また、委員の皆様からも、具体的なエピソードだったり、現場の声を聞くことができたとの感想を頂いております。

一方で、コミュニケーションの時間を十分確保できた分、各所管課の「事業を分かりやすく伝える力」、説明力というところにばらつきが見られるようになったなど事務局としては実感しておりまして、この新たな課題にも取り組んでいかなければならないと考えております。このことについても、この後ご説明していきたいと思っております。

続きまして、6ページ目になります。令和3年度までは、重点プロジェクト事業にラインナップされている事業全てを区民評価で評価していただいていたのですが、今年度も継続して、事業を絞り込んで評価をしていただきたいと考えております。

7ページ目をご覧ください。

以前は1分科会当たり15事業程度を評価していましたが、今年度も1分科会当たり6～7事業を評価していただきたいと考えております。

区民評価対象とする事業の選定基準は、こちらに記載の2点ということで考えております。四角で囲ってある部分に記載しておりますが、1つは、

足立区基本計画・行財政運営方針・予算のあらましで、その年度で区が特に力を入れて取り組むとしている事業、そしてもう一つは、事務や予算の執行において、課題や改善すべき事項がより明確な事業ということにしております。

こうした基準に基づきまして、昨年度は19事業を選定し、評価をしていただきました。

昨年度、評価活動終了後に、学識委員の皆様と今年度2年目になる皆様にアンケートを行いまして、次年度の事業選定に当たってのご意見を伺いました。それらも考慮しまして、今年度の実施に先立ち、区としての考えを整理したものが、こちらの下に記載してある2点になります。

1点目、基本的には、同じ事業を経年で評価していただき、前年度の区民評価結果を踏まえてきちんと改善がなされているのかといった点の検証をしていただきたいという点になります。

そして2点目です。これに合わせて、委員会からのご意見を踏まえて評価対象事業の一部入替えを行うという点になります。

皆様のアンケートを踏まえまして、入替えの例として挙げたのは、事業の効果が認められて、評価が高かった事業、そして、区民評価の仕組みを取り入れなくても、今後も区民ニーズに沿った事業改善をしていくことがこれからも期待できるだろうと委員の皆様からご意見を頂いた事業になります。

具体的なひと・くらし・まち分科会における事業ラインナップにつきましては、次第の6の(2)のところでご説明させていただきます。

次に、8ページ目をご覧ください。こちらは、今年度の新たな取組について記載しております。その1つ目になります。

先ほど、ヒアリング時間の拡大によって、所管課の説明力に差が見られるようになったことから、分かりやすく伝える力の底上げが課題であるということをお伝えいたしました。

区民の皆さんに分かりやすく事業を伝えるた

めに、事務局としましては、庁内に向けた啓発に既に取り組んできております。

まず、昨年度末、2月頃になりますが、職員向けの「行政評価報告会」という動画研修を実施しました。こちらは、昨年度の区民評価結果の紹介に加えまして、区民評価のヒアリングで評価の高かった事業の所管課の職員に登場してもらいました。また、眞野委員にもご協力いただきまして、対談を通して、職員が区民に分かりやすく伝えるヒントというものを伝えるような動画を作成して、庁内で研修として活用していただきました。

また、今年度、4月当初に、各部の行政評価推進員というものが各部に職員が推薦されているのですけれども、事務局と各部の窓口になる職員に当たりますが、この職員に集まってもらって、今年度のヒアリングに備えてポイントとなることを周知いたしました。

そのスライドの例を少し載せているところではありますが、委員の皆様からの「現場の声、生の声を聞きたい」というご意見も昨年度ございましたので、準備の過程では、各所管課に必要なに応じて伴走支援をしつつ、委員の皆様にも事業そのものだったり、職員の奮闘というようなものが伝わるようなヒアリングになるようにサポートしていきたいと考えています。

また、今年度は、これも新たな取組になるのですが、各事業のヒアリングの様子を録画させていただきたいと思っております。それで、コミュニケーションや説明力の面でご評価の高かった事業については、ヒアリング場面を研修教材ということで活用しまして、今年度の職員研修を充実させたいと考えております。ご理解とご協力を頂きますとありがたく思っております。

最後に、9ページ、現場視察の実施になります。今年度、各分科会において、1事業ずつ現場視察を行うということを想定しております。現在、各事業の所管課に調査しまして、視察の候補となるような現場をピックアップしているところにな

りますが、先ほどのスケジュールの中でお示したようなヒアリング・評価作業のあたりの期間中に日程を確保できればと考えております。詳細は追って皆様にご連絡させていただきたいと思っております。

事務局からは以上となります。

○藤後会長 ありがとうございます。

今の事務局の説明について、何かご意見及びご質問があればお願いいたします。何かございますでしょうか。よろしいですか。

それでは、続いて次第の(2)の分科会の構成及び各分科会評価事業についてです。

今年度の評価活動を進めるに当たりまして、分科会の設置と構成員、活動の流れ、そして区民評価を行う事業について確認してまいりたいと思っております。

事務局より説明をお願いいたします。

○事務局(政策経営担当係長) 私のほうから引き続きご説明させていただきます。

資料を共有させていただきますので、少々お待ちください。

こちらでご説明するのが主に資料3と資料4になります。

まず、資料3の1ページ目をご覧ください。

基本構想では、「協創力でつくる 活力にあふれ 進化し続ける ひと・まち 足立」の実現のために、「ひと」「くらし」「まち」「行財政」の4つの視点で基本的な方向性を整理しております。

視線を下に落としていただきますと、基本構想の下に基本計画というものがございます。重点プロジェクト事業はその中に位置づけられております。重点プロジェクト事業につきましても、「ひと」「くらし」「まち」「行財政」という4つの視点で事業を整理しております。

この4つの視点のうち、「行財政」につきましては、「ひと」「くらし」「まち」の近い内容で各分科会に分けております。

基本計画の層の一番下に事務事業というものが位置づけられております。足立区が実施する全ての事務事業を合わせると650になりますが、これらのうちの一部、課題のある事業を抽出し、一般事務事業見直し分科会で評価していただくこととしております。

先ほどご説明させていただきましたとおり、各分科会で評価していただく事業は6事業～7事業といたしました。一般事務事業につきましては、決算後に事業を抽出するという流れになりますので、現時点ではおおむね7事業程度と示しております。

続きまして、2ページ目～4ページ目をご覧ください。こちらは、ひと・くらし・まち分科会のそれぞれに位置づけられている重点プロジェクト事業ラインナップということになります。そのうち、区民評価の欄に「○」印がついているものにつきましては、区民評価対象事業ということになります。

資料1にお戻りいただきたいのですが、名簿になっております。資料1の裏面、2ページをご覧ください。委員の皆様にとどの分科会で評価していただくか、委員の皆様のご希望、ご経験、バランスなどを考慮して、このような形で分科会の構成をさせていただいておりますので、いま一度ご確認をお願いいたします。

続きまして、資料4のほうもご覧ください。資料4につきましては、年間の評価活動の流れを图示しています。

1ページ目は、ひと・くらし・まち分科会の皆様に関連するスケジュール、2ページ目、裏面は、一般事務事業見直し分科会の皆様に関連するスケジュールとなります。

各項目の実施内容につきましては、詳しくは研修でご説明しますので、ご安心ください。まずここでは、ざっくりと大枠のご説明をさせていただきます。

まず、重点プロジェクト事業のほうを簡単にご

説明しますと、評価活動に入る前に、事前に各事業の調書と補助資料をお送りいたします。ヒアリングの前に事前に質問したいことなどがありましたら、事前質問票にご記入いただきまして、事務局にお送りください。事務局は、各課からの回答を集約しまして、6月下旬頃に委員の皆様にお返しいたします。

各所管課とのヒアリング、評価作業については、既に事務局の各分科会の担当職員と調整をさせていただいているところになります。視察の日程については、今後別途ご相談をさせていただきたいと思います。

おおむね6月下旬からヒアリングが始まりまして、7月いっぱいをめどに評価結果をまとめていただきます。

その後、各分科会の分科会長が報告書案を作成し、8月23日の全体会にてその内容を検討し、報告書案を決定いたします。その後、9月12日に区長答申を行うという流れになります。

そして、答申と同じ日に、委員の皆様と区長との意見交換会も開催させていただきたいと思えます。区長、副区長、そして区の部長級のコアメンバーと今年度の評価活動の振り返りの機会を設けさせていただきたいと考えております。これらを経て、区民評価委員会の評価活動というものは終了となります。

続いて、一般事務事業の年間の評価活動の流れについても、直江のほうからご説明いたします。○事務局（財政担当係長） 変わりました、一般事務事業のところについて補足を少しさせていただければと思います。同じ資料の2ページ目、裏面をご覧くださいければと思います。

先ほど芳賀の説明の中でも少し出しましたが、一般事務事業ですが、区役所の決算を迎えてから事業抽出をするような関係がありまして、少しスタートが遅れることとなります。具体的に言いますと、区役所の決算は5月末で確定するというのが実際の動きになっております。ですので、皆さん

に事業のお知らせができるのが6月下旬からということで、重点プロジェクトと走り出しのところが変わってくるということになります。

あとの流れについては、おおむね重点プロジェクトと同じ動きをしまして、最後の第2回全体会、区長答申のところではお尻は合ってくるというような動き、大きな枠ではそのような動きで進んでいく形となります。

もう一つ申し添えさせていただきますと、この全体会が終わった後、各分科会に分かれて、分科会ごとの簡単な説明をさせていただく予定をしておりますので、詳しくは、一般事務事業の担当の皆様には、そこでもう一度詳しくお伝えしたいと思っておりますので、この説明ではここまでとさせていただきます。

以上です。

○藤後会長 今の事務局の説明について、何かご質問及びご意見があればお願いいたします。——よろしいでしょうか。

初めての方は少しイメージがつきづらいとは思いますが、最初は調書と補足資料がどんと送られてきますので、そこをしっかりと読み込んでいただいて、事前質問票をうまく活用していただければと思います。そこでしっかりと質問を書きいただければと事前にいろいろご準備してくださいしますので、ぜひご活用いただければと思います。

では、先ほど事務局から説明があったとおり、分科会につきましては、ひとと行財政分科会、くらしと行財政分科会、まちと行財政分科会、一般事務事業見直し分科会の4分科会に分かれて活動をしてまいります。

学識委員は、分科会の割当てをしておりますので、資料のとおりにてご了承いただければと思います。

区民委員の皆様のご構成ですが、案をお示しいただいております。この案は、事前に皆様にご関心のある分野をお聞きした結果、分科会の目的や委



員の皆様のご経験等のバランスを考慮し、事務局が作成したものです。この案に基づきメンバー構成を決定していきたいと思いますが、いかがでしょうか。——ご提案いただいたものでよろしいですかね。

それでは、分科会の構成につきましては、資料のとおり決定いたします。

なお、答申に当たっては、事務局の説明どおり、第2回全体会で各委員から頂いた意見を基に私と事務局で最終的に区民評価委員会活動報告書をまとめる形でご一任いただければと思います。

では、続いて、次第の6の(3)、会議の傍聴についてです。具体的には、分科会の公開について皆様にお諮りいたします。

資料5の足立区区民評価委員会条例施行規則第4条の規定に基づき、本全体会及び分科会は公開が原則となっております。

ただし、分科会につきましては、所管とのヒアリング以外は、自由な討議に支障が生じるおそれがあるという判断から、昨年度まで非公開としてまいりました。今年度も分科会につきましては同様の取扱いということによろしいでしょうか。

また、傍聴人は、規定上10名まで会議室への入室が可能なのですが、昨年度に引き続き、会議室の広さや収容定員数を勘案し、事務局との協議の上決定していきたいと思いますが、それに関してもよろしいでしょうか。

それでは、そのようにさせていただきたいと思います。ありがとうございます。

次に、区民評価委員会の表彰制度について、事務局からご説明をお願いいたします。

○事務局(政策経営担当係長) 続きまして、6の(4)、区民評価委員会の表彰制度についてご説明をさせていただきます。資料6をご覧ください。

表彰制度につきましては、平成29年度から区民評価委員会からの提案を受けて実施を継続しております。

表彰制度の目的は、各プロジェクトのさらなる推進と評価事業の円滑化、協創をサポートするための「職員力」を高めることということで、その視点といたしましては、評価活動に対する所管課の参加度や理解度といった観点から、評価活動への貢献度の最も高かった事業を分科会ごとに選定していただいているものです。

基準についても、こちらに記載のとおり、「わかりやすい説明」「課題の伝え方」「意気込み、本気度」「事業成果の伝え方」を総合的に判断していただきまして、各分科会で1事業を選定していただくということになります。

参考までに、昨年度、分科会ごとに選定していただいた事業を掲載しております。

この表彰制度につきましては、区民評価委員会からのご提案で始まったという経緯もございますので、今年度の実施につきましてもご意見を伺いたいと考えております。

まずは会長のほうからご意見を頂いてもよろしいでしょうか。

○藤後会長 承知いたしました。

この区民評価委員会の表彰制度につきましては、実は私も委員になった何年目かのときに、この表彰制度というものがそのときのメンバーから提案されたのです。

先ほどの「今年度の区民評価活動」の1ページをもう一度見てもらっていいですか。「行政評価のねらい」というところを見ていただければと思うのですが、行政評価のねらいは4つ挙がっています。分科会の中で評価活動をしていくと、どうしても2番目の「成果重視」という数値を中心に評価をします。もちろんその方向性は正しいのですが、ただ、成果が出づらい事業というのはどうしてもあります。例えば福祉や教育はすぐには成果は出ないのです。所管の方々がすごく熱心に関わっていただいていることは伝わってくるのですが、どうしても全体の評価としては、数値が出ないので低くなってしまいます。

いわゆる数値としての評価は低いのですが、チーム一体となって動いている、そしてその状況、プロセスを熱意を持って伝えてくださっている、そのことを何かきちんと形にできないか、見える化できないかというようなことで私たちから提案させていただきました。

ヒアリングによる評価というのはあくまでもコミュニケーションの場と考えています。そこで、先ほどの「行政評価のねらい」の1番目、「説明責任」というような視点からも、この表彰制度を上手に活用していただきながら、皆さん方の熱意に関してしっかりこちらもフィードバックしたいと思います。

そして、最後の4番目、「職員の意識改革」という点でも、すばらしいプレゼンやプレゼンに至る前の準備段階やチームワークをほかの所管の方々にも知っていただき、意識改革につながっていただきたいという思いもありました。以上の理由から、ぜひ今年度も継続させていただければとは思っております。

ほかに皆様方、ご意見ございますでしょうか。  
○石井委員 石井です。昨年と同じように「意見ありますか」ということで頂いて、まだ1年目だったので、表彰をもらう人が喜んでくれればそれでいいなという思いで拝見していたのですけれども、目的は「職員力」を高めると。視点としては「評価活動への貢献度が最も高かった」とあって、どうしてもそこだけ去年から引っかかっていまして、私が言葉尻を拾っているだけかもしれないのですけれども、私たち委員会に対して貢献してくれた人に評価をするというように見えてしまっ、職員さん自身がモチベーションを持って例えば説明責任を果たすための能力を上げているというか、そういうところに光を当てるべきなんだろうと。

なので、結局、5点とか4点とかを取らなくても、頑張り度で評価しますよとか、そのあたりを思い切り変えなくてもいいのかもしれないので

すが、評価活動への貢献度の高かった人に表彰が行くよというふうに職員の方が言われたときに、「よし、頑張ろう」と思うのか、ちょっと引っかかっていまして、こういう表彰制度もあるよというふうに職員の方に言わなければいけないので、もうちょっと表現が変えられないかなと。例えば、説明責任を果たす能力というか、熱意なのか、そういうところが高かったチームを表彰したいとか、何かもうちょっと工夫ができたほうが私たちの真意が伝わるんじゃないかなというところで、皆さんのご意見を伺いたいと思います。

○藤後会長 貴重なご意見、ありがとうございます。特に「評価活動への貢献」の中の「貢献」というような言葉ですよね。貴重なご意見、ありがとうございます。

もしこれに代わるようなお言葉であったり表現についてご提案がこの時点でございましたらお出しただければと思います。もしすぐにご提案というのが難しいようでしたら、一度今の意見を引き取らせていただいて、そのことも踏まえながら表現を検討させていただきたいと思います。  
○石井委員 完全にゼロベースだとつらいと思うので、一つのご提案としては、「区民への説明責任を果たすことに貢献した」とか、我々だけじゃなくて、ほかの区民に同じことを言っても、「あっ、それはいいね」と思ってもらえるようなプレゼンテーションができているというか。プレゼンがよければいいということじゃなくて、中身も大事なのですけれども、そういう中身になっているかというところの視点をうまく入れ込めないか。それをいい言葉にできたらいいなと。

○藤後会長 ありがとうございます。そういう意味で、キーワードは「区民への説明責任」というところを強調していきます。私たち委員だけじゃなくてというところですね。その先にいる区民への説明というところを上手に付け加えさせていただきたいと思います。貴重なご意見、ありがとうございます。

ほかに何かございますか、お気づきの点等。  
——よろしいでしょうか。

またもし何かありましたら、その後に事務局にご連絡いただければと思います。

それでは、これで第1回足立区区民評価委員会を終了させていただきます。事務局、終了してよろしいですか。

では、スムーズな進行にご協力いただき、ありがとうございました。全体会はここで閉会とさせていただきます。

今後の予定につきまして事務局から連絡がございますので、よろしく願いいたします。

○事務局（政策経営課長） 藤後会長、ありがとうございました。

それでは、次第の7、「分科会別今後の予定について」を含めて幾つか事務連絡をさせていただきます。

今後のスケジュールについては、分科会ごとに分かれて評価活動を行っていきます。令和6年度につきましては、ひとと行財政分科会は菅原、くらしと行財政分科会は乾、まちと行財政分科会は古田、一般事務事業見直し分科会は直江・渡辺が担当となります。この後、分科会ごとに分かれてスケジュールの確認をさせていただきます。

また、冒頭にご説明させていただいた、机上にカラーのチラシを置かせていただいたのですが、この点について少しだけご説明させていただきます。チラシが「足立区基本計画ライブミーティング」のご案内でございます。

現在、足立区の基本計画は6年度までの計画期間となっておりますが、令和7年度から令和14年度までの計画期間とする新たな基本計画の策定作業に取り組んでおります。

策定に当たりまして、足立区に関わる多くの方の意見が必要だということで、足立区基本計画審議会でご議論いただいているところですが、さらに多くのご意見を頂くため、会場でのディスカッションと動画の生配信による意見交換を同時に

行う「ライブミーティング」というものを開催させていただきます。

会場でのご参加は抽選となりますが、足立区の公式 YouTube チャンネル「動画 de あだち」へアクセスして、ご覧いただき、ご質問やご意見を投稿していただくこともできます。一般向け、小学生向け、中学生向けのチラシをご用意しておりますので、お持ち帰りいただき、ご家族でご参加していただけますと幸いです。

最後に、お車でおいでの方は駐車券のご用意がありますので、事務局にお申し出いただければと思います。

私のほうからの連絡事項は以上となります。本日はありがとうございました。

ウェブ会議でご参加いただいています大口副会長は、このまま少々お待ちください。

本日はありがとうございました。